

教育目標		たくましく心豊かな子どもの育成					
重点目標		・「主体性」をキーワードに保育実践を行い、「意欲」「豊かな表現」「思いやり」「共同」を育む教育を推進する					
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
確かな学力の向上	主体性の育成	○自ら「やりたい」気持ちを引き出し、遊び込む子どもを育成する保育実践力を向上させる。 「やりたい」「やってみたい」という姿を視点を記録せし、その気持ちを「もつとやりたい」「まだまだやりたい」という気持ちを育てるための援助を探り、実践する。 ・子どもの学びや子どもの育ちをクラスだより、ホームページ、えんだよりなどを通じて発信する。	・保護者アンケートの回答の中で、「子どもは、やりたい事ややってみたい事に挑戦しようとする気持ちが育ってきている」など回答の結果が85%以上になる。 ・園内研究会や保育実践事例研究協議会を計画的に実施する。 ・各通信媒体を通じて、月1回以上の発信を行う。 ・各種研修会に自己研鑽のために年間一人1回は参加する。	A	・アンケート結果は、肯定的な回答が98%で目標を上回った。 ・園内研究や会議等は計画を立てる事に時間を要したが、計画通り進めることができた。 ・クラスだより等に写真と10の姿や保育のわらいを載せることで、遊びの中の学びを伝えるようにしてきた。少しずつ遊びや幼児教育の大切さについて理解が深まりつつあると感じる。 ・研修会参加し、個々の資質向上および学びを共有することができた。	・子どもが遊び込んでいる姿を見つけて、主体性の育成を推進する。 ・遊びの中の学びを発信していく。 ・各種研修会への参加は、責任出席のみならず、自己研鑽のために自ら参加し、学びを共有する。	・園児が主体的に調べ物をしている姿が見られた。子どもに興味関心にとことん向き合う教師の姿勢が成果につながっていると思う。
	聞く力・話す力の育成	○人の話を最後まで聞き、自分の思いを伝えようとする。 ・分かりやすい言葉での語りかけや視覚で理解しやすい状況づくりなど発達段階に応じて指導方法を工夫する。 ・愛情をもった、応答的な関わりを実践し、子どもの豊かな言葉を引き出せるようにする。 ・絵本などの読みかきさを毎日実践する。	・保護者アンケートの回答の中で、「子どもは、人の話を聞こうとしたり、自分の思いを人に伝えようとしたりするようにできている」の回答の結果が、80%以上になる。 ・日々の保育の中で、子どもの言葉にならない思いやわずかな変化に気づき、振り返りを行い、翌日への保育計画に反映させる。	A	・アンケート結果は、肯定的な回答が100%で目標を上回った。 ・幼児理解に基づき、伝えようとしている気持ちに寄り添い、代弁したり、言葉を促したりを大切に保育をしてきた。 ・話を最後まで聞かず行動してしまうことがあり、伝えたい気持ちが大きい傾向が見られる。	・自ら伝えたいという気持ちを育て、協同性の育ちを推進する。 ・教師自ら豊かな言葉で語りかけたり、絵本の読み聞かせを行ったりして、豊かな言葉を育てる。	・言葉をつないで、自分の考えを伝えるために、最後まで話することが苦手な子どもがいる。粘り強く、温かい関わりを継続することが大切である。
	特別支援教育の推進と充実	○園に応じた支援計画を作成し、適切に実施する。 ・特別な支援を必要とする幼児とともに、すべての幼児の育ちや課題などについての情報交換を行い、支援や指導の方向性や方法の共通理解を図る。 ・必要に応じて、巡回相談や専門機関など、外部機関との連携を図る。 ・一年を前期、後期に分け、関係保護者に個別指導計画の開示、面談を行う。	・保護者アンケートの回答の中で、「幼稚園は、一人一人の子どもの愛情をもてかわり、個々の発達に応じた教育を行い、共に育ち合えるようにしている」の回答の結果が80%以上になる。 ・年間6回以上、個別の支援にかかるとの回答を行う。 ・各種研修に年間一人1回は参加する。	A	・アンケート結果は、肯定的な回答が100%で目標を上回った。 ・個別支援計画作成にかかるとの会議を中心に、年間8回の会議を行った。また、随時職員間で幼児の実態を共有し支援することができた。 ・特別支援にかかるとの研修に年間一回は参加することができ、学びを共有することができた。	・支援対象児だけでなく、個に応じた支援をすすめるために、職員間で共通の支援方法を検討する。 ・保護者の理解啓発をすすめる。	・個に応じた支援はこれからの教育では必要不可欠である。 ・園の育ちと学級集団の育ちの情報交換と課題を明確にすることが大切である。 ・まずは、教師自身が研修を重ね、子どもの実態把握を行い、話を見極める力をつけることが今後も必要である。
豊かな心と健やかな体の育成	道徳教育の推進	○自分を好きになり、他を思いやる気持ちを育む保育を実践する。 ・動植物の飼育栽培を通じて行ったり、身近な社会事象などを通じて生命について考えたり機会を設け、命の尊さや人のぬくもりに気づかせていく。 ・「他を意識し思いや考えに触れられるような保育を計画的に行えるよう、教師の力量を高める。 ・教師自身の道徳性を常に磨き、人権意識を高める。	・保護者アンケートの回答の中で、「子どもは、自分を大切に、他を思いやる気持ちをもつことが出来るようになってきている」の回答の結果が80%以上になる。 ・飼育、栽培を保育の中で計画的に実践する。 ・教師間で各種人権にかかるとの資料などを供覧し、自らの気づきを実践し活かす。	A	・アンケート結果は、肯定的な回答が98%で目標を上回った。 ・動植物の飼育栽培がしやすい環境をつつことと、自ら関わる機会が増え、関心をもつようになった。 ・自尊感情や自己肯定感を育む援助を職員で学んだ。人権にかかるとのDVD研修を行ったりして、学んだことを共有し、保育にいかすことができた。	・肯定的な回答が98%は嬉しい評価である。動植物の飼育栽培の経験ができる環境の工夫とともに、子ども達への肯定的な声かけが評価につながっていると思う。 ・誕生会の場で、保護者から誕生の様子や名前前の由来などについての話や子どもは両親にとって大切な宝物であることを話してもらうなど工夫するとよいと思う。	
	基本的な生活習慣の確立	○自ら健康な生活に関心をもち取り組めるようにする。 ・手洗いうがいなどの徹底を中心に、幼児が自分自身の体や健康に関心を持つように指導を繰り返す。 ・園内に保健指導の内容や自立に必要な事が視覚で振り返ったり、学んだりでできるようにする。 ・保護者啓発として、ほけんだよりを毎月1回発行し、月1回の保健指導の内容をホームページから発信する。	・保護者アンケートの回答の中で、「子どもは、体の健康について関心をもち、手洗いうがいを実践するようになっている」などの回答の結果が80%以上になる。 ・「ほけんだより」の発行やホームページの更新が目標通り適切行われている。 ・子ども達が自ら気づけるような掲示物や啓発のための工夫がされている。	A	・アンケート結果は、基本的な生活習慣に関する項目は97%、健康教育に関する項目は100%と目標を上回った。 ・月1回の「ほけんだより」の発行、毎月のはげんのはなしのホームページ更新は目標通りできた。 ・子ども達が自ら意識できるように、保育室内などの掲示物の工夫をしていく必要がある。	・子ども達が自ら気付いて感染症対策に取り組んだり、健康な生活などに関心を持って取り組めるよう、ほげんのはなしや掲示等を工夫する。	・コロナ禍の生活から、感染防止対策として徹底して実践していることが、健康な体を維持し続けられていることを知らせる。 ・自転車通園についての意見があがっているので、体力作りのためにも、登園ルールを見直すことが必要ではないか。
	健やかな体作り	○戸外遊びの中で、幼児がやってみたいと思う遊びの拠点を充実させる。 ・コロナ禍であり、戸外での活動を減らし、遊びの環境、遊びの動線などを考え、環境の工夫を行う。 ・自ら体を動かして遊びたいと思う用具や道具の提供や身のこなしが豊かになるような遊びの提供を行う。 ・食への関心をもち、自らの健康に意識をもてるような保育を実践する。 ・(縄、ボール、三輪車、巧技台など)体の健康を保つために欠かせない食の栄養について学ぶ機会を設ける。	・保護者アンケートの回答の中で、「幼稚園は、戸外遊びでの遊びを充実させるよう遊びの環境を整えて挑戦したり、試したりできるように工夫している」の回答の結果が80%以上になる。 ・食に関する関心をもち、自らの食生活を振り返り、体の健康に意識を向けるようになる。	A	・アンケート結果は、肯定的な回答が100%で目標を上回った。 ・戸外遊びの場が分散されるよう、週末をもとに教師間で話し合い、遊びの環境を整えた。 ・ほげんのはなしを通して食の栄養について学ぶ機会を取り入れ、弁当の身を意識する姿が見られた。	・遊びの見通しをもって環境を再構成したり、援助したりする。 ・園生活の中で健康について考えたり、食に関心をもつたりできるような保育計画を立てる。	・広大な園庭を今後活かして欲しい。 ・幼児期から、家庭を巻き込んだ取り組みを続けていくことが大切であると思う。
開かれた園づくり	教育活動への理解の推進	○園情報の積極的な発信に努める。 ・園生活の様子などを中心に、ホームページで発信する。 ・玄関ボードやクラスだより、幼稚園だより等で幼児の育ちや学びなどの具体的な姿を伝える。 ・地域の集会に参加し、園の姿をアピールする。 ・園児の預かり保育を実施し、利用を推進するとともに、親子で安心して遊ぶことができる園庭開放を実施する。	・月4回以上、ホームページを更新する。 ・保護者アンケートの回答の中で、「幼稚園は、クラスだよりやうらえんだより、ホームページなどを通じて、教育方針や活動内容を発信している」などの回答の結果が80%以上になる。 ・保育参観や保育参加を実施し、幼児にとつての遊びの大切さを体験できる場を設定する。 ・預かり保育の実態を周知し、安心できる居場所づくりになるように工夫する。 ・園庭開放を実施し、親子で安心して遊ぶことができる場を開放する。	B	・平均月6日以上はホームページを更新することができた。 ・アンケート結果は、肯定的な回答が97%で目標を上回った。 ・参観等の内容を工夫し、「遊び」の中の学びを感じられるような機会を設けたことで、遊びごとに見てもらえるようになった。 ・預かり保育の利用実態を周知することができなかった。 ・コロナ禍であり、園庭開放の有無が不確定であり、利用がほとんどなかった。	・幼児教育における「遊び」への理解を促し、遊びの中の学びを具体的に伝える。 ・地域の会等で現状を伝え、幼児教育への理解を促す。 ・預かり保育を充実させ、ゆとりをもって子育てできる環境を支援する。	・保護者と情報交換をもち、情報共有を行い、共に考えていくことが大切である。 ・教育方針や活動内容を理解してもらおうような発信の工夫が必要である。そうすることで、保護者の理解と協力、家庭教育につながっているのだと思う。 ・預かり保育や園庭開放などが今後も充実することを願う。
	安心・安全な園作り	○学校安全計画、事故対応マニュアル及び防火計画等を作成し、全職員で確認する。 ・学期に1回以上、避難訓練を実施し、避難経路の確認と職員の適切な対応を行う。 ・機会を捉えて幼児自身が防災意識や防犯意識が高まるように指導する。 ・月1回は各保育や園庭など園内の安全点検を実施し、不良箇所について全職員が把握し、改善策を講じられるようにする。 ・日常の連絡などにも一斉メールを利用し、保護者にとつてもメールが身近なものになるように工夫する。	・保護者アンケートの内容の中で、「幼稚園は、避難訓練と幼児の安全に関する指導を家庭ともともに身につくように指導している」の回答の結果が80%以上となる。 ・確実に安全点検を実施し、不良箇所の把握のため、点検後に共有し、業者依頼が必要な場合はすばやく対応する。 ・一斉メールの利用後にメール内容を掲示し、確認漏れがないように周知徹底する。	B	・アンケート結果は、肯定的な回答が100%で目標を上回った。 ・安全点検を定期的実施したが、不良箇所の共有や改善策が不十分な時があった。今後は、点検方法も含め、結果に対する対策を適宜行う必要がある。 ・一斉メール配信サービスを適宜利用し、送信失敗の家庭には、登録の再確認を行い、100%の送信ができるようになった。 ・日常的に使用し、ペーパーレスにつながるような使い方を推進していく。	・自ら守る行動ができるように、避難訓練等を定期的実施する。 ・一斉メール配信サービスの利用を促進し、アンケート機能などを活用しながら、配付物の縮小化を図る。	・メール配信サービスの利用は保護者にとって、とてもありがたいと思う。100%の送信可能は、粘り強い取り組みの成果である。今後も継続して欲しい。 ・コロナ禍であっても、避難訓練は必要である。アンケート結果がほぼ100%は素晴らしい。次年度は小学校と連携した、水害避難訓練ができるように思う。

○学校関係者評価総括  
・園のあらゆるところに感染防止対策を意識した工夫が見られた。・職員のチームワークがよく、雰囲気が良い。・子ども達が常に密にならないよう、保育、行事の持ち方に工夫が見られ、全職員で取り組んでいることが分かる。そして、子どもがよく育っている。

○次年度に向けた重点的な改善点  
・コロナ禍の中、「新しい生活様式」を考えるきっかけを得た。遊びの分散に伴い魅力ある環境の作り方、のびのびと元気いっぱい遊び込むための援助、園生活そのものあり方、行事の工夫など、一つ一つの考え方の中心に「子どもにとってどうあるか」を職員で考え実践していく。